

回覧



# わがまち池上

池上管内世帯人口数  
(外国人住人を含む)  
(令和5年8月1日)

- ・世帯数 24,725
- ・人口(男) 22,275
- ・人口(女) 23,072
- ・人口(計) 45,347

発行：地域力推進池上地区委員会  
編集：地域情報紙  
「わがまち池上」編集委員会  
事務局：大田区池上特別出張所  
〒146-0082 大田区池上1-29-6  
電話 (3752) 3441(代)



発行日3・6・9月の25日、12月15日

## 池上の昔を語る(31)

### 写真家・岸川洋子さん

(池上二丁目茅葺農家(横溝家)を撮影)

岸川さんは1940年佐賀県生まれ、1962年に上京し40歳で写真を始めました。池上在住歴は34年、現在は池上から少し離れたところにお住まいですが、池上三丁目に住んでいた頃に一丁目に残る茅葺農家と出会い、その家屋とそこにあつた暮らしを写真におさめていくことになりました。家主は、横溝昌一さんテツさん夫妻。

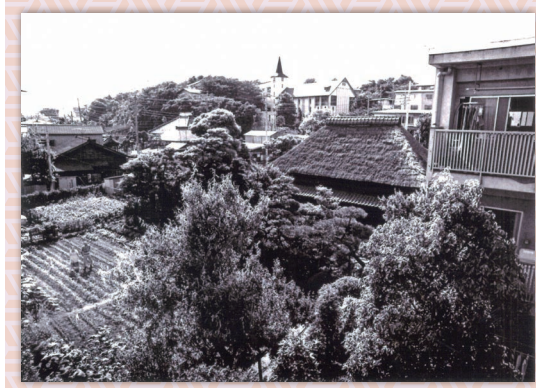
1982年当時のその出会いについて、岸川さんは、のちにまとめた写真集「茅葺東京」に次のように記しています。

『路地を入って、東京のごく普通の家屋、アパート、…といくと、突然眼前に苔むした茅葺き屋根が出現した。生け垣とブロック塀をぐるり巡って隣接するマンションのわきをすり抜けると、そこには東京にいることを忘れてしまうような世界があつた。ふりそぐ陽光の下、茅葺き家は畑や草花や庭木を従えてどっしりと立ち、目がちかちかしたのを覚えている。』

すり減った玄関の戸、縁側やちやぶ台、黒光りしている柱や梁。岸川さんはそうした光景のすべてに魅了され、その後度々横溝家を訪れます。

「田舎育ちの私にとって、お二人の世界で同じ空気を吸うことには何の違和感もありませんでした」

昌一さんは、以前はかなり



手広く農業を営んでいたようですが、その頃はもっぱらご自身のための畑仕事をされていたそうです。シャイで、来客があつてもすぐに畑に出てしまふという昌一さん。対応役はいつもテツさんでしたが、そのうちに昌一さんとも『座談に終始することが多くなつた』そうです。

畑で印象に残っているのは、肥料を作るための大きなカメ。『汲み出したし尿に、わらや枯葉等を混ぜ、この中へ寝かせて発酵させた』肥料によって、昌一さんの作る野菜は本当に美味しかった、とのこと。

一方で、テツさんがかまどでご飯を炊く姿も、心に残る光景の一つ。お二人の暮らしぶりを見て『人の暮らしとは本来こんなものではなかつたか』と思つたそうです。



1989年にテツさん、1993年には昌一さんが亡くなり、家はほどなく取り壊されることになりました。『丁寧に進められる解体作業を見守りました。長い年月を経て黒くなつた材の複雑な組み立てや、接合部の驚くことばかりでした』

こうして岸川さんは、関東大震災と第二次世界大戦にも耐えたこの家と、お二人の最期を見届け、1998年には一冊のドキュメンタリー写真集「茅葺東京」を世に出します。この写真集は当時も各方面から高い評価を受けたようですが、それから四半世紀が経ち、今あらためてみると、副題の「ふるさとの残像」という言葉が一段と深く心に響きます。(文中『』は「茅葺東京」からの引用)



コロナ禍を乗り越え、8月27日(日)、第18回池上まつりが四年ぶりに開催されました。お天気に恵まれ、開始前から池上会館付近には人々の活気や熱気が溢れました。

実行委員長の開会宣言で開会式が始まりました。

大森四中吹奏楽部による演奏、主催者や来賓の方々の挨拶の後、勇壮な和太鼓演奏でまつりの幕は上がりました。10時30分より恒例のオープニングパレード。

会館付近のフリーマーケットや国際色豊かな模擬店は一日中大賑わい。池上小学校のピロティやその前に展示された消防車や自衛隊の偵察バイクにも多くの子供達が群がっていました。

会館内の職人尽くしでは置刺、江戸表具、手描友禅絵、家具木工、西瓜彫刻、氷彫刻(会場広場で実演)など、見事な作品を披露。

2階では、いけまち探検隊など8団体の展示やお楽しみ抽選会に早くから人が集まりました。また室内遊びやぬり絵、東急電鉄の駅非常停止ボタン操作体験、池上昔写真などには、中高年から子供達まで参加し、楽しみました。

また、室内ステージでは民謡やコーラス、楽器演奏、みるきうえいのミュージカルや劇団山の手事情社のパフォーマンスと演劇など、幅広い世代の皆さんが楽しめる演出が続きました。

一方、野外ステージには今回屋

## 池上まつり

根が付けられ、観客席には移動用のテントが置かれました。とは言え、猛烈な暑さの中、はねびよんなど色々なキャラクターが登場したり、ダンスやフラットおおたに通う若者などのバンド演奏が繰り広げられ、観客を魅了。

池上在住のシンガーソングライター原田真二さんのコンサートでは、平和や環境問題についてのトークや「キャンディ」などの楽曲に続き、「タイムトラベル」を観客と共に熱唱。盛り上がりは最高潮となりました。

ラストは、絆蓮華組よさこいチームによる華やかなステージ。馬込中の皆さんが力強い「よさこい踊り」を見せてくれました。そして、来場者やまつりのスタッフも交えて「東京音頭」を踊り、まつりは終了しました。

沢山の方々の力を結集し、感動の輪が大きく広がった池上まつりでした。



オープニングパレード



# ツバメの巣立ち



大城通りと池上通りの交差点の角の村山商店の右隣りに、堤方南自治会会長の樋口幸雄さんの旧店舗(池上5-3-23)があります。そこにツバメが5月15日ごろ、やってきて、巣づくりを始め、一カ月後に巣立っていきましました。樋口さんは語ります。

「20年ほど前に、ガレージだった旧店舗にツバメがやってくるようになったのですが、平成の時代が終わると、来なくなっていました。」

それが今年になって、突然、また顔を出してくれて、巣づくりを始めたのです。一週間で4個の卵を産み、4羽のヒナが生まれましたが、一つ落ちたので拾って巣に戻しました。

カラスなどにやられないように、午後7時に戸を閉めて、午前5時には開けます。飼猫が午前4時に枕元にきて起こしてくれるのです。」

落ちた一羽は結局飛び立つことはできなかったのですが、6月15日、残り三羽は親や仲間のツバメが見守る中、励まされるように飛び立ったとのこと。

「来年もまた、来てくれると嬉しいです。そのときは、みなさんも見に来て下さい。」



# 池上幸豊

川崎市川崎区には池上新町と池上町という、池上を冠する地名が2つあります。多摩川の両側には共通の地名が点在しています。多摩川の流れが変



大森第四中 作品

# 人々が関わり合える池上

2年 日野 更紗

池上は、本門寺で行われるイベント、あたり一面に広がる自然など様々な魅力があります。そのような魅力がある中、私の思う池上の魅力は「人々が関わり合える池上」です。それが典型的に見られるのは、本門寺で毎年行われるお会式です。初めて知り合った地域の方と万灯を運び、お会式をみんな盛りに上げる、これは池上だからこそできることではないでしょうか。また普段の生活にも

地域の人々は関わっていません。挨拶をしたから地域の人々も返してくださる、明るく声をかけてくださることもありません。さらに、池上周辺の商店街はとも賑わい、地域の確かなつながりを感じます。

今の時代は人と関わらずに過ごしていける地域もあるでしょう。しかし、人とのつながりを感じ、関わり合うことができる、そんな魅力があるのがこの池上だと思います。



2年 下川原 昊



3年 秋田 侑希奈

わってきたことによる影響です。川崎区の池上もそうだと主張する人もいますが、池上の場合は違います。

池上新町と池上町は池上幸豊という人の姓から来ています。幸豊は、日蓮上人を池上に招き池上本門寺を建立することになった池上宗仲から数えて24代目にあたる人です。

曾祖父の池上家21代の幸廣のとき、池上氏は徳川幕府に士分を返上して百姓身分となり、新田開発のため一族郎党を引き連れて、川崎の大師河原村に移住しました。幸豊はその曾孫で、池上新田を開発しました。

優れた文化人、マルチ型の人で、エシキテルで有名な平賀源内の友人でもありました。甘蔗(サトウキビ)による糖業の草分け、塩作り...等々、産業振興にも尽力しました。

池上新町2-24-21の汐留稲荷神社には幸豊の顕彰碑があり、祭神として祀られています。塩浜2-7-10の神明神社の境内社の塩釜神社は、幸豊が製塩に従事したことを示すものです。最盛期には33軒の釜屋があったそうです。

そこから産業道路に沿って南側の横浜市鶴見区に寛政町がありますが、こも池上幸豊が開発した新田で、梨栽培はここから始まりました。

産業道路を羽田側に戻った日ノ出2-6-3の蔵島神社境内に出来野稲荷神社がありましたが、長十郎梨はこの出来野が発祥地です。

この出来野稲荷神社には、池上姓を名乗る人々が寄進した幟が100本以上もはためいています。また四谷上町23-20の義田稲荷神社の義田は、池上新田開発中の困窮者を救う

ための田んぼでした。

曾祖父の幸廣は大変な酒豪で、大蛇丸底深と名乗り、一族の総大将として酒戦をやったことがあり、川崎大師駅前2-13-16の若宮八幡宮にはその記念碑があり、「水鳥祭」として祭りも行なわれています。また、若宮八幡宮にほど近い大師駅前2-1-2には幸廣や幸豊など一族を祀った墓地「池言坊」もあります。



# 青少対だより

コロナのため中止されていた池上青少対の秋の行事が、4年ぶりに開催の運びとなりました。青少対の委員の皆さんも、はりきって準備を進めておられますので、皆さんの参加をお待ちしています。

## 池上スポーツまつり

10月15日(日)9時~12時、池上文化センター2階体育室にて小学校、町会自治会対抗のポッチャ交流会を開催します。ポッチャとは、障害や老若男女問わず楽しめる競技です。

## 池上ふれあいコンサート

11月3日(祝・金)13時より池上会館2階集会室にて池上地域の保育園をはじめ、小・中学校、福祉園、各種団体など、10団体の発表があり、最後には皆さんの合唱もあります。

# 俳壇

市ノ倉北町会 清寿会

ガラス越し  
おしゃべり弾む 芙蓉かな  
ひろこ

ナナカマド  
蒼き空押し 燃え上がる  
あきよ

夕暮れの  
水辺飛び交う 赤とんぼ  
れいこ

あと何度  
いけるか彼岸 墓まいり  
ヤスオ

夏の草  
風のさくやき 靴の音  
えつこ

背伸びして  
真紅に咲いてる 彼岸花  
ふみえ

蒸し暑き  
夏の盛りの セミの声  
さちこ

百日紅  
豪雨台風の中  
増す色気  
とし坊

# 編集後記

線状降水帯・猛暑日・熱中症などの文字が新聞に踊る一方、コロナの報道が目立たなくなってきた。またまた増加傾向にあるとのこと。専門医からは「国内にはまだコロナに未感染の人が半数近くいるので、ウイルスから見れば付入ることが出来る環境にある」というので、熱中症患者増加の陰で、コロナの治療が疎かにならぬよう願うと共に、我々も感染に怠りなきよう心掛けたいものです。

